

ウクライナ救援カンパ

～ゆにふあん・クラウドファンディング～

第14回

ゆにふあんでは、これまで7件のクラウドファンディングが紹介・実施され、労働組合の画期的な取り組みとして関心を集めている。連合本部でも、ウクライナの人々が安心して生活を取り戻す力になればとの思いから、4月から6月末までのおよそ2ヵ月半、クラウドファンディングを活用した救援カンパを実施した。その背景やクラウドファンディングによる支援の特徴について、運動企画局の畠山薫局長と岡本直也部長に話を聞いた。



連合 運動企画局
畠山薫局長
(取材当時)



連合 運動企画局
岡本直也部長

クラウドファンディングでカンパを実施した背景は？

畠山：今年2月、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始して以降、食料や水、医薬品などの物資の不足や国内外への避難など、ウクライナの人々の危険な状況が報道されました。「何かできることはないか」「どこに寄付すればいいのか」といった声が構成組織や地方連合会から上がるようになりました。同時に、コロナ禍による在宅勤務の増加から「職場でのカンパ活動だけでなく、オンラインでできるクラウドファンディングが適しているのでは」との声もあり、連合本部での実施を決めました。

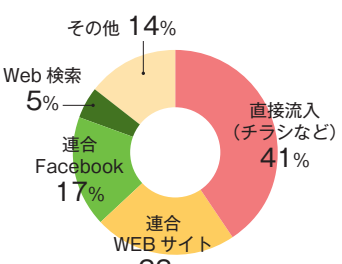
ゆにふあんには、クラウドファンディングサイト「READYFOR」と連携し、資金を必要とする活動をサポートする仕組みがあり、これを使ってコロナ禍において法律や制度の狭間で支援を十分に受けられない団体を支えてきた実績があります。

「ウクライナの人々、子どもたちの安心して生活を取り戻すために力になりたい」。その思いをクラウドファンディングを通じてカタチにしていこうと、組織を越えた共感を生み、さらには連合・労働組合の活動を一般の人にも知ってもらえれば、「支え合い・助け合い」という、ゆにふあんの理念が実現できると考えました。

カンパの具体的な仕組みは？

畠山：構成組織・地方連合会には、職場内での呼びかけや街頭カンパなどで集まった募金を連合本部の特設口座へ振り込む、あるいはクラウドファンディングへ振り込む、二つの方法を活用してもらいました。組合員個人にもどちらかの方法を選択できるようにし、一般の方へはクラウドファンディングからの寄付を呼びかけました。中央労協からは、メーデーで販売した福島産のお米の売上金全額をクラウドファンディングへ寄付

クラウドファンディングへの
支援者流入経路



きポイントをおさえるなど、より効果的なPRを展開したいと考えています。

畠山：連合ならではのところが、組織としての特徴が見えたのだと思います。募金活動では各組織で様々な周知をしていると思いますが、チラシによる発信に一定の効果があることが明らかになった点は今後の参考になると思いますし、効果が見える化された新しい寄付のカタチをつくれたと考えています。

今回の経験をどのように活かしたいですか？

畠山：ウクライナの支援を目的にREADYFORのサイトを訪れたことで、たまたま連合の活動を知った方もいたでしょうし、すでに連合を知っていても「ゆにふあんを

初めて知った」という方もいると思います。そういう意味では、連合の存在や、連合・労働組合が取り組んできた社会貢献活動を組織内外の方々に知ってもらい、良いきっかけにもなつたと感じています。クラウドファンディングをやってみようと思いついたとしても、手続きや運営面に不安を感じ、躊躇している組織や団体には、今回の経験を活かした様々なアドバイスを支援ができればと思います。連合の機関会議で紹介したり、FacebookやTwitterなどで発信をして一緒に盛り上げていくこともできると思います。連合全体として取り組むためにも、ぜひ、ゆにふあんを活用していただきたいと思っています。

ありがとうございました。

「支え合うこと、助け合うこと」をもっと身近に。

労働組合や地域でのNPO・NGOによる社会貢献活動を、WEBサイト「ゆにふあんマップ」へ掲載することで、ボランティアや物資・資金の寄付などの募集・参加ができます！



皆さんも「ゆにふあん」を活用してください！



新たなカンパのカタチ
組織を越えた共感を生むクラウドファンディング

